

交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2011年6月2日

No.22

第3回夏季手当交渉報告！

中央本部は、本日13時30分から「第3回夏季手当交渉」を行い手当要求の根拠を明らかにしました。中央本部は以下の4点を要求の根拠にあげ会社に突き付けました。

- ①22年度は定期昇給半年見送りの苦渋の決断をして臨み、輸送障害など異常時において安全確保と安定輸送に努め、収入確保に向け苦労した結果の表れとして3.6億円の経常黒字を達成した。この間の苦労に会社は報いること。
- ②11春闘交渉での確認事項である「業績給は期末手当で還元を行う」の約束を果たすこと。
- ③東日本大震災での輸送障害に不眠不況で対応し、更に迂回輸送を積極的に取り組むことで「社会に役立つ鉄道貨物輸送」をアピールし社会的使命を果たした。今後の復興に全社一丸となって取り組むためにも組合員のモチベーションの向上をはかること。
- ④12年連続ベアゼロや期末手当の削減、定期昇給半年見送りなど、これまで賃金改善措置がなされていない状態であり、組合員の生活が疲弊していること。

これを受けて会社は現段階の考え方について示しました。

- ①大震災で収入が大幅減になったが、3.6億の黒字が達成できた。定昇半年見送りの重さを認識し、努力した社員に報いることは組合の指摘の通りである。
- ②今年度に入っても大震災の影響があり、まだまだ先行きが不透明である。今年度は厳しい経営状況にあるが何としても黒字にしたい。
- ③大震災直後に早い段階で迂回輸送が行えたことで、マスコミからも大きく取り上げられてJR貨物をアピールできた。今後も瓦礫輸送等復興に向けて取り組むと同時に収入拡大に向けて取り組む。
- ④毎年その都度ギリギリの交渉を行い、社会経済状況も踏まえた結果である。

会社の考え方に対して中央本部は2点について会社に強く指摘しました。

- ①経営の先行が見えない状況にもかかわらず今年会社役員を増やすとしているが、許されない行為である。何故ならば経営状況が厳しいことを会社は常に主張し、我々にガマンを強いてきた。その一方で役員を増やす経営陣の経営姿勢が緩んでいると言わざると得ない。役員増とする理由と根拠を説明されたい。
- ②3年連続の赤字回避をできたのは職場の組合員の努力の結果である。春闘時の確認事項を会社は履行し具体的に目に見える形で還元するべきだ。

中央本部の指摘に対して会社は

- ①役員を増やすことは事実であり、背景・事情を考慮した結果である。次回の交渉時に理由を明らかにする。
- ②6月で大手荷主の動向が掴めるので収入見通しが見えてくる。その時点で今年度計画及び中期経営計画を見直す考えである。

最後に中央本部は、「会社は交渉に対して不誠実であること。役員を増やした理由が言えないことは組合員を軽視している行為である。22年度を黒字にした成果を目に見える形で還元するか次回交渉時に明らかにすること」を通告し交渉を終えました。

組合員のみなさん！我々の苦労を踏みにじる会社経営陣の無責任な姿勢を許さず「6.10全国統一行動」において全組合員の怒りを結集し闘いをつくり出していきましょう！！

次回、第4回交渉は6月9日（木）です。